

# 1. 森林生態系保護地域としての適切な管理の推進

## 1 希少種・固有種の保護

### <課題>

#### ○ 希少野生生物種・固有種の保護管理対策について

(対象となる団地: 全て)

### <主な意見>

- 産業廃棄物不法投棄、飼い猫等の遺棄が問題。また、ノライヌ・ノラネコへ餌を与えている住民等がいる
- 昆虫採取の業者が入っているが、実態がつかめていない
- 夜間にライトトラップで昆虫を大量捕獲するグループがいると民宿から情報がある。民宿等での有効な対策を検討すべき
- 昆虫など生き物については、持ち出し禁止の条例等の対策が必要
- 監視カメラでしっかり管理することは重要

### <現状>

- 希少種・固有種の盗掘・盗採の被害が出ている
- 不法投棄や飼いイヌ・飼いネコ等の遺棄がされている
- ノネコによるアマミノクロウサギなどへの捕食被害が頻発している
- マングースの駆除により、アマミノクロウサギの個体数は回復傾向

### <これまでの主な取組(検討中も含む)>

- ・巡視等による現況の把握、盗掘・盗採防止対策【林野庁、県、市町村、民間団体】
- ・希少野生動植物種の保護増殖【環境省】
- ・希少野生動物の交通事故対策【環境省・県・市町村】
- ・マングースの捕獲【環境省】
- ・ノネコの捕獲・捕獲計画の検討【環境省】
- ・ヤギの捕獲、放し飼い、放出規制【県、市町村】
- ・オキナワウラジロガシの樹勢回復措置(板根腐敗の治療)【林野庁】
- ・森林生態系保護地域の指定【林野庁】
- ・国立公園の指定【環境省】
- ・飼い猫の適正飼養条例を制定【市町村】
- ・希少野生動植物保護条例を制定【県、市町村】

<対応方向>

○関係機関と連携しながらパトロールの強化、効果的な希少種・固有種の盗掘・盗採対策に努める。

○モニタリング調査により、希少種・固有種の生息・生育状況の把握に努めると共に、森林生態系の順応的な管理を実施。



© 亘悠哉

### 団地ごとの希少種の分布状況

国有林の各団地の希少種の分布状況については、保護林設定の判断基準のベースとして指標種リストが作成され、分布状況がまとめられている(平成23年度報告書)。指標種は、大陸依存種や分布限界種、固有種など奄美群島を特徴づける種が選択されている。

指標種リスト(1/3: 合計 113 種)

種名(旧分類種名)	環境省RD B	鹿児島県 RDB
アカハシユスラン	VU	I
アカハダコパンノキ	CR	準
アキサキナギラン	EN	I
アツイタ	VU	I
アマミアオネカスラ	CR	I
アマミアセビ(リュウキュウアセビ)	CR	I
アマミアワゴケ	CR	I
アマミイケマ	CR	II
アマミイワウチワ	CR	I
アマミエビネ	CR	I
アマミカシカエテ	CR	I
アマミカタハミ	CR	I
アマミクサアジサイ	EN	I
アマミサンショウ	—	II
アマミスミレ	CR	I
アマミセイシカ	CR	I
アマミテンダ	CR	I
アマミテンナンショウ	EN	I
アマミヒイラギモチ	CR	I
アマミフユイチゴ	—	II
アワムヨウラン	CR	I
ウケユリ	CR	I
オオオサラン	EN	I
オオシマウツギ	—	準
オオシマガマスミ	—	II
オオシマムラサキ	—	準
オオタニワタリ	VU	II
オオナギラン(アキサキナギラン)	EN	I
オオハカンアオイ	EN	II
オキナワウシロガシ	—	II
オサラン	VU	II
カゲロウラン	NT	II
カケロマカンアオイ	EN	I
カンノキラン	VU	—
カンザシワラビ	EN	I
ククシノブ	VU	II
キハノセッコク	EN	II
グスクカンアオイ	CR	I

指標種リスト(植物 2/3: 合計 113 種)

種名	環境省RD B	鹿児島県 RDB
クスクスラン	CR	I
クニガミユスラン	EN	—
クロホシクサ	VU	II
ケイオウフウラン	CR	I
ケラマツツジ	VU	II
コケセンボンキク	CR	I
コケタンポポ	VU	I
コゴメキノエラン	CR	I
コバノアマミフユイチゴ	CR	I
コビトホランノブ	CR	I
サガリラン	CR	不足
サクライトウ	EN	I
サツマオモト	CR	I
シコウラン	EN	I
シヤブコウジラン	—	I
シマイヌサンショウ	—	準
シマウリカエテ	—	分布重要
シマカナメモチ	VU	II
シマサルスベリ	NT	準
シマユスラン	VU	II
スズタ	VU	II
タイワンショウキラン	CR	絶滅
タツツラン	CR	I
タニムラカンアオイ	—	—
チケイラン	VU	—
チャボイナモリ	—	II
ツルラン	VU	II
トクサラン	NT	II
トクノシマエビネ	EN	I
トクノシマカンアオイ	VU	II
トクノシマテンナンショウ	CR	I
トリガミネカンアオイ	EN	I
ナギラン	VU	準
ナゴラン	EN	I
ハツシマカンアオイ	EN	II
ハルサキヤツシロラン	VU	II
ヒメウラボシ	EN	II
ヒメカカラ	NT	II

指標種リスト(植物 3/3:合計 113 種)

種 名	環境省RD B	鹿児島県 RDB
ヒメキセワタ	VU	準
ヒメサキゴケ	EN	I
ヒメケラン	VU	II
ヒメヤマコナスビ	CR	I
ヒモラン	EN	準
ヒロハタマミズキ	CR	I
フジノカンアオイ	VU	II
ホウサイラン	CR	I
ホサキザクラ	EN	I
ホソバハマセンダン	CR	I
ホンゴウソウ	VU	I
マツハラン	NT	準
マメツタン	NT	II
マルミスブタ	VU	II
ミヤビカンアオイ	EN	I
ミヤマシロバイ	VU	II
ムカゴサイシン	EN	I
モダマ	CR	II
ヤエヤマネコノチチ	VU	II
ヤクシマアカシユスラン	VU	—
ヤクシマネツタイラン	EN	I
ヤクシマヒメアトシラン	NT	II
ヤドリコケモモ	CR	I
ヤナキスブタ	—	I
ユウレイラン	NT	I
ユワンオニコロ	—	I
ユワンツチトリモチ	CR	I
ヨウラクヒバ	EN	II
ラハオンダ	EN	I
リュウキュウマノスズクサ	—	II
リュウキュウサキソウ	EN	I
リュウキュウスズカケ	CR	II
リュウキュウツルマサキ	CR	II
リュウキュウハナイカダ	NT	II
リュウキュウヒモラン	CR	—
レンギョウエビネ	VU	I
ワラビツナギ	CR	I

指標種リスト(動物:合計 26 種)

種 名	環境省RD B	鹿児島県 RDB
アマミケネズミ	EN	I
アマミノクロウサギ	EN	I
ケナガネズミ	EN	I
ワタセジネズミ	NT	準
オリコキクガシラコウモリ	EN	—
ヤンバルホオヒゲコウモリ	CR	I
リュウキュウテングコウモリ	EN	I
リュウキュウユビナガコウモリ	EN	I
アカヒゲ	VU	II
アマミヤマシギ	VU	I
オトラツグミ	VU	I
オーstonオオアカゲラ	VU	I
カラスバト	NT	準
ルリカケス	—	II
アマミハナサキガエル	VU	II
イシカワガエル	EN	I
イボイモリ	VU	I
オットンガエル	EN	II
アカホウスハゼ	CR	I
キバラヨシノボリ	EN	I
ヨロイホウスハゼ	CR	I
リュウキュウアユ(小班図)	CR	I
アマミセマダラマグソコガネ	—	I
アマミトラハナムグリ	—	I
アマミマルバネクワガタ	VU	II
ヨツオビハレキカミキリ	—	I

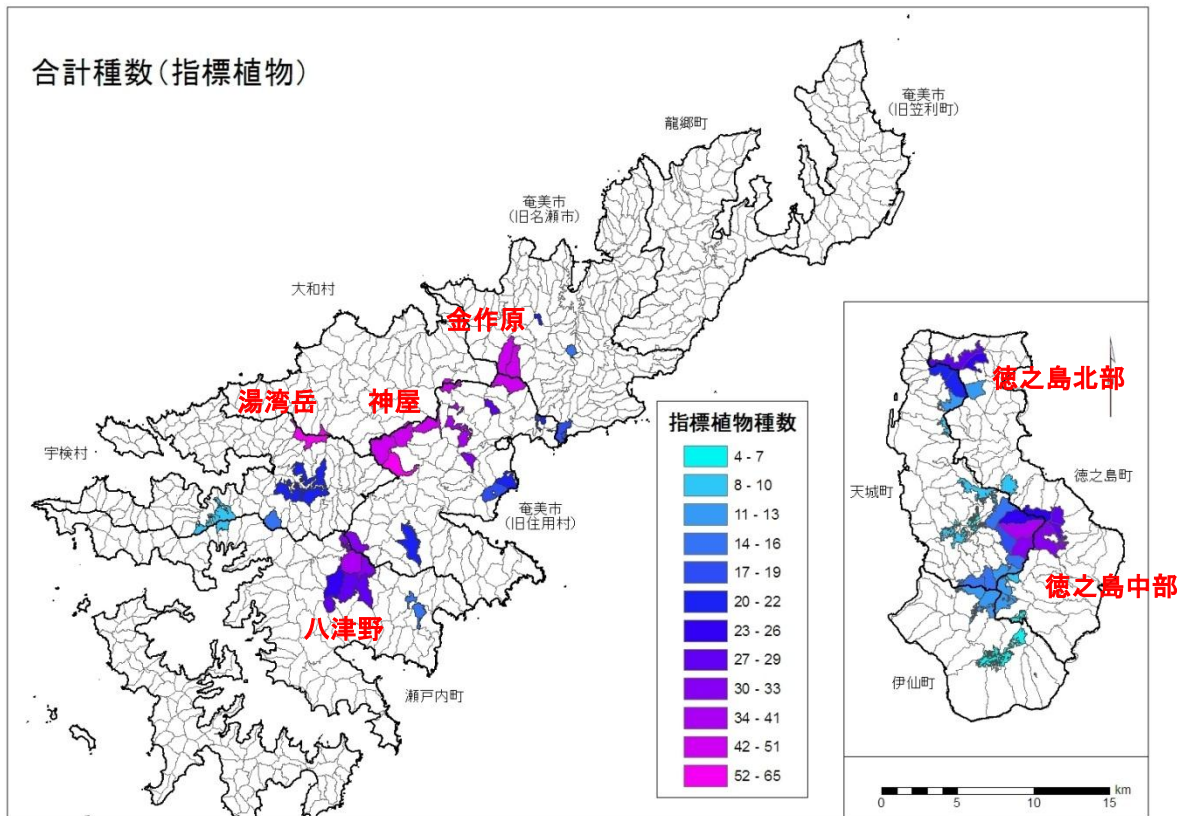


図1 林班ごとの指標種(植物)の分布情報種数

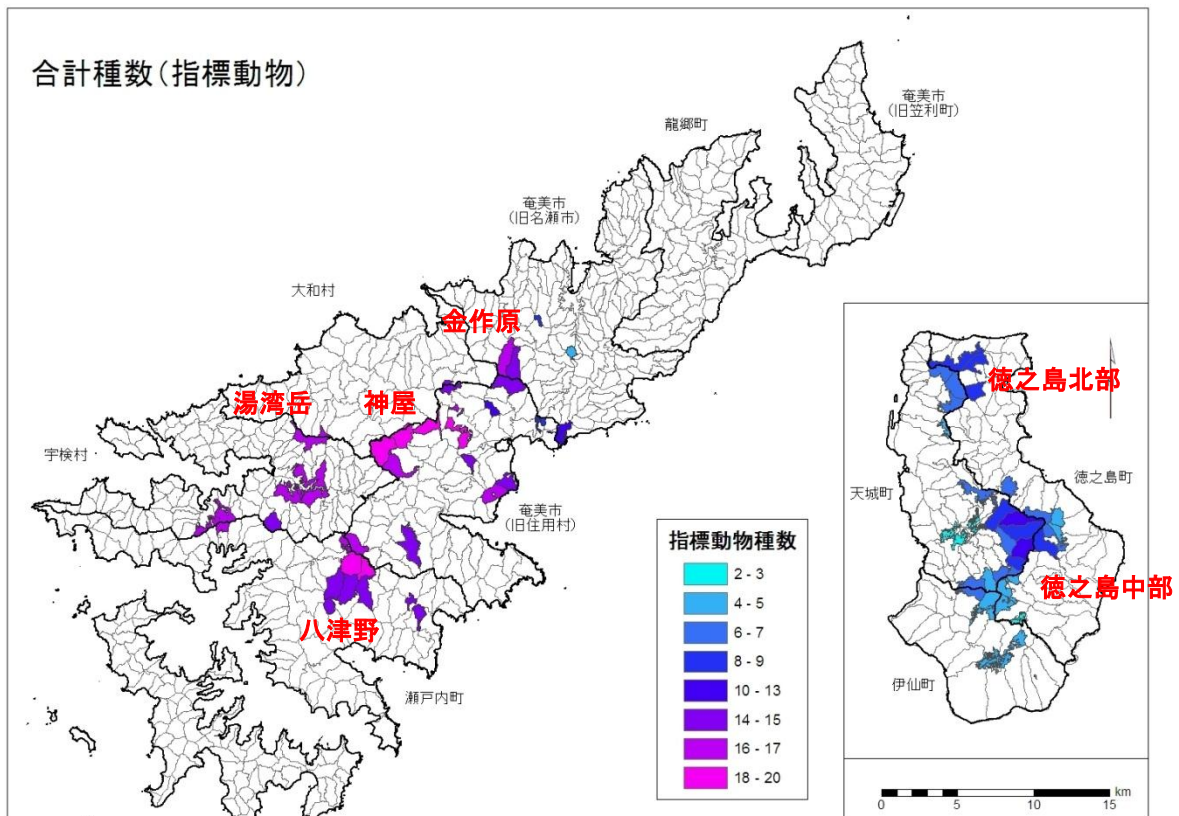


図2 林班ごとの指標種(動物)の分布情報種数

### 奄美大島(森林生態系保護地域:オレンジ)

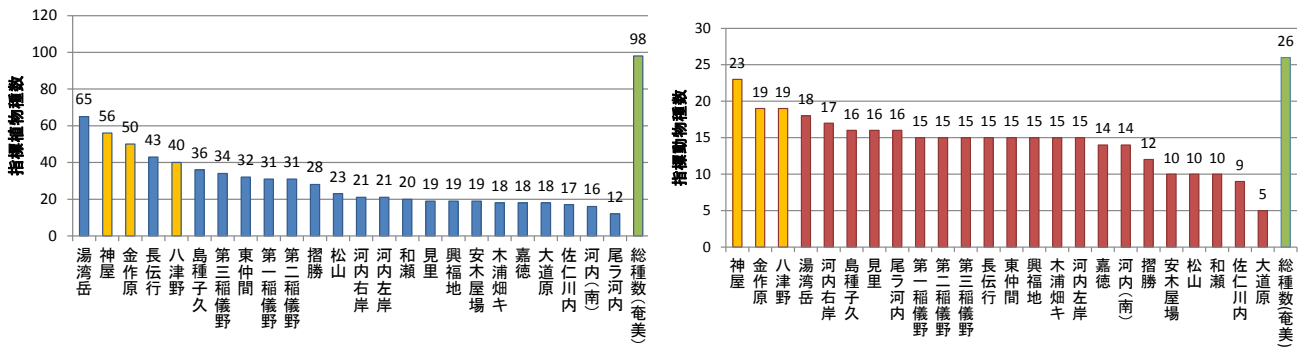


図3 奄美大島の各団地の指標植物(左)、指標動物(右)の分布情報種数

### 徳之島(森林生態系保護地域:オレンジ)

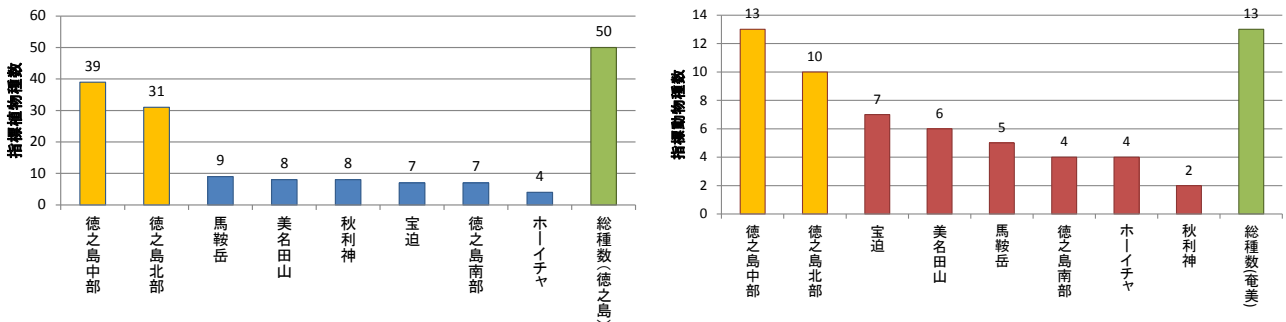


図4 徳之島の各団地の指標植物(左)、指標動物(右)の分布情報種数

#### 奄美大島

全ての団地で指標動植物の分布情報が得られ、奄美大島の国有林が指標動植物の重要な分布地になっていることが明らかになった。特に指標生物が多くみられたのは、指標植物については、湯湾岳において65種と、奄美大島の国有林全体で分布情報のあった98種のうちの66%に至った。また、神屋や金作原など湯湾岳と同様に原生的な森林を有する森林や、長伝行や島種子久など川内川流域の国有林、奄美大島の中で面積が最も大きい団地である八津野などの種数が高かった。

指標動物については、神屋で23種と最も多く、奄美大島の国有林で分布情報があつた全26種のおよそ88%を記録した。次いで金作原や八津野、湯湾岳、河内右岸などが高い種数を記録した。

#### 徳之島

全ての団地で指標動植物の分布情報が得られ、徳之島の国有林が指標動植物の重要な分布地になっていることが明らかになった。指標植物については、徳之島中部において、39種と最も多く、徳之島の国有林全体で分布情報のあつた50種のうちの78%になった。次いで、徳之島北部が31種で多かった。

指標動物についても、徳之島中部が13種と最も多く、徳之島の国有林で分布情報があつた全13種が記録された。次いで徳之島北部が10種と高い種数を記録した。

指標動植物の分布と各団地の特徴、課題

島	団地	指標植物 分布情報種数 <sup>1)</sup> 奄美:計 98 種中 徳之島:計 50 種中	指標動物 分布情報種数 <sup>1)</sup> 奄美:計 26 種中 徳之島:計 13 種中	各団地の特徴	希少生物の保護上の課題
奄美大島	金作原	50 種(51%)	19 種(73%)	大川源流の沢が森林内に多く、沢沿いを中心に希少植物が多く生育する。 かつては、アマミノクロウサギやアマミシカワガエルなど希少動物も多く生息していたが、マングースの影響で局所絶滅してしまった。しかし近年の対策の効果により、アマミシカワガエルやアマミハナサキガエルの回復の兆しが見え始めている。	北部、南部の広葉樹林の回復により、希少動植物の状況が大きく改善される余地が十分ある。 観光利用が群島内で最もおい森林であり、利用調整と環境啓発が課題となる。 マングース対策の成否により希少動物の状況が大きく左右される。
	神屋	56 種(57%)	23 種(88%)	住用川流域を中心に希少植物が多く生育する。 ほとんどの希少野生動物にとっての最重要生息地のひとつとなっている。	アマミノクロウサギ観察のナイトツアー利用が多い。クロウサギの活動時間帯における攪乱だけでなく、希少カエル類の轢死も生じている。 マングース対策の成否により希少動物の状況が大きく左右される。
	八津野	40 種(41%)	19 種(73%)	人工林や二次林が広がるものの、役勝川流域を中心として、いまだに希少植物の宝庫が残っている。 また、アマミノクロウサギやリュウキュウテンゲコウモリなどの陸上希少動物が生息するほか、役勝川にはリュウキュウアユも観察することができる。	広葉樹林が回復することで、希少動植物の状況が大きく改善される余地が十分ある。 県道からのアクセスが容易で、盗掘被害情報が多い場所であり、防犯対策の強化が望まれる。 マングース対策の成否により希少動物の状況が大きく左右される。
	湯湾岳	65 種(66%)	18 種(69%)	群島内で最高標高の湯湾岳を有し、奄美大島でも最も希少植物が多く生育する場所である。 希少動物も多く生息する。	国有林面積が小さく、周辺の民有林との保全管理水準の連携が課題となる。 盗掘情報が多く防犯対策の強化が望まれる。 マングース対策の成否により希少動物の状況が大きく左右される。
徳之島	北部	39 種(62%)	10 種(77%)	天城岳の山頂をはじめ、北部部の稜線沿いを中心として、希少植物の重要な生育地となっている。 また、アマミノクロウサギやトクノシマトゲネズミ、アマミハナサキガエルなどの主要な生息地ともなっている。	ノネコによるクロウサギ捕食の被害情報も多く、対策が課題である。 盗掘情報も多く、防犯対策の強化が望まれる。 登山道の利用の増加も想定され、事前の利用ルール策定や啓発が望まれる。
	中部	31 種(78%)	13 種(100%)	井之川岳の山頂および秋利神川沿いを中心として、希少植物が多く生育する。また、犬田布岳を含め、着生植物も多いことも特徴として挙げられる。 三京や丹発山、剥岳林道沿いには、オキナワウラジロガシの大径木の群落が形成され、徳之島を特徴づける森林景観が広がっている。 秋利神川上流域には、アマミノクロウサギやアマミハナサキガエルなどの希少動物が生息する。	ノネコによるクロウサギ捕食の被害情報も多く、対策が課題である。 盗掘情報も多く、防犯対策の強化が望まれる。 登山道の利用の増加も想定され、事前の利用ルール策定や啓発が望まれる。